

## 「ただ」をはっけんしよう

創世記  
39章 2~3節

主がヨセフとともにおられたので、彼は幸運な人となり、そのエジプト人の主人の家<sup>いえ</sup>にいた。彼の主人は、主が彼とともにおられ、主が彼のすることすべてを成功<sup>せいこう</sup>させてくださるのを見た。

「ただ」とは、神の子<sup>かみ こ</sup>どもである私<sup>わたし</sup>のいる所<sup>ところ</sup>で、最も当然<sup>もつと とうぜん</sup>で必要なこと<sup>ひつよう</sup>です。この「ただ」は、私<sup>わたし</sup>のまわり、私<sup>わたし</sup>と関係<sup>かんけい</sup>している最も簡単<sup>もつと かんたん</sup>なことを通<sup>とお</sup>して発見<sup>はっけん</sup>することができます。レムナントのヨセフを例<sup>れい</sup>に見てみましょう。

ヨセフは奴隷<sup>どれい</sup>の現場<sup>げんば</sup>で「ただ」を見つけました。奴隷<sup>どれい</sup>だった彼は、毎日<sup>まいにち</sup>、掃除<sup>そうじ</sup>などの家<sup>いえ</sup>の仕事<sup>しごと</sup>をしなければなりませんでした。そのとき、自分<sup>じぶん</sup>に与<sup>あた</sup>えられたことから「ただ」を発見<sup>はっけん</sup>しました。主人<sup>しゅじん</sup>だったポティファルは、「ただ」を発見<sup>はっけん</sup>したヨセフを見て二つのことを悟<sup>さと</sup>りました。神様<sup>かみさま</sup>とともにいることが何か、また成功<sup>せいこう</sup>とは何かを知るようになったのです。身分<sup>みぶん</sup>や経済<sup>けいぎ</sup>的な面<sup>めん</sup>から見ると、ポティファルが成功<sup>せいこう</sup>しているように見えますが、神様<sup>かみさま</sup>がともにおられたヨセフにこそ成功<sup>せいこう</sup>がありました。

今日<sup>こんにち</sup>、私<sup>わたし</sup>のまわり、私<sup>わたし</sup>と関係<sup>かんけい</sup>している最も簡単<sup>もつと かんたん</sup>なことをしっかりと見てみましょう。すると、神様<sup>かみさま</sup>から私<sup>わたし</sup>にだけくださった最も当然<sup>もつと とうぜん</sup>で必要な「ただ」が見つかります。私<sup>わたし</sup>たちの家庭<sup>かてい</sup>、学校<sup>がっこう</sup>、友達<sup>とも</sup>たちと先生<sup>せんせい</sup>と接<sup>ま</sup>する中<sup>なか</sup>で見つけましょう。私<sup>わたし</sup>を通して神様<sup>かみさま</sup>とともにいる奥義<sup>おくぎ</sup>が現<sup>あらわ</sup>れるでしょう。



書いてみよう

下<sup>した</sup>のみことばを聖書<sup>せいしょ</sup>から見て書きましよう。それから、同じ聖句<sup>せいこ</sup>を英語<sup>えいご</sup>で書きましよう。きょう、私<sup>わたし</sup>の「ただ」を見つけて全世界<sup>ぜんせかい</sup>237か国<sup>こく</sup>に持<sup>も</sup>って行<sup>い</sup>く夢<sup>ゆめ</sup>を発見<sup>はっけん</sup>するように祈<sup>いの</sup>りましよう。

創世記39章3節のみことば

His master saw that the Lord was with him and that the Lord caused all that he did to succeed in his hands. (Gen 39:3, ESV)



きょうのみことば



きょうのでんどう

あひと  
会う人

じゅんび  
準備する資料



きょうのいのり

神様<sup>かみさま</sup>、ありがとうございます。いちばん簡単<sup>かんたん</sup>なところに隠<sup>かく</sup>されている神様<sup>かみさま</sup>の奥義<sup>おくぎ</sup>である「ただ」を見つけるレムナントになりますように。生きておられるイエス・キリストのお名前<sup>なまえ</sup>によってお祈<sup>いの</sup>りします。アーメン

「ゆいいつせい」を はっけんしよう

出エジプト 35章 35節

主は彼らをすぐれた知恵で満たされた。それは彼らが、あらゆる仕事と巧みな設計をなす者として、彫刻する者、設計する者、および、青色、紫色、緋色の撚り糸や亜麻布で刺繍する者、また機織りする者の仕事を成し遂げるためである。

ほとんどの人は、自分が自立つような大きくて重要なことをしようとして、多くの人の関心を集めたいからです。そのような中で、自分に与えられた小さなことを軽く見て、手を抜くことがあります。今しなければならぬ小さなことに、神様が私の唯一性を隠しておられるという事実を知らないからです。小さなことの中には、大きなことをやり遂げるための重要な原理が隠れています。

フィラデルフィアで最初の百貨店と言われるお店を作ったワナメーカーは、この事実をよく知っていました。それゆえ、本屋さんの店員として社会生活を始めたときから、自分に与えられた仕事を誠実にやり遂げて、唯一性を見つけ出すことができました。

いま私にはどんな小さなことが与えられていますか。神様とともにいる礼拝と祈りの中で、そのことに心を向けましょう。すると、神様から与えられた唯一性の答えが少しずつ見えてきます。そのとき、だれも止めることのできない神様の力が始まるでしょう。今日から神様の力が現れる時を待って、今日の小さなことを通して唯一性を味わいましょう。神様の力で世の中をいやして生かす唯一のレムナントになるでしょう。

きょうのみことば

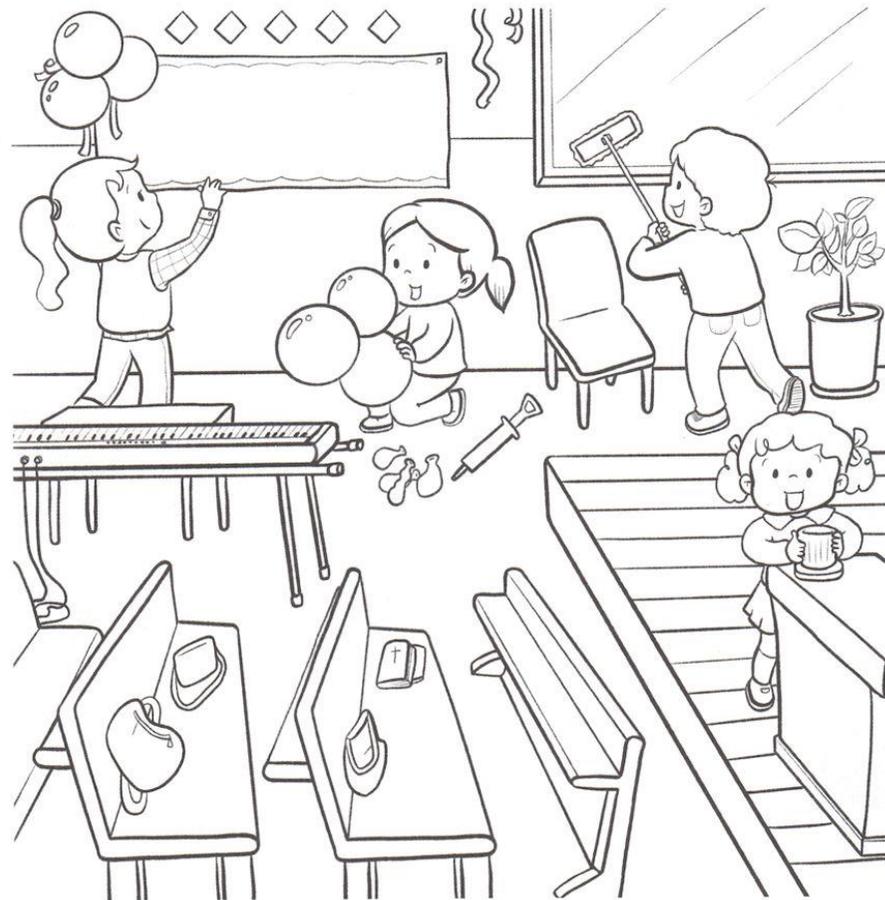


きょうのいのり
神様、ありがとうございます。私に与えられた小さなことに、神様の奥義を見るために、礼拝と祈りに心を向けますように。生きておられるイエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン



色をぬろう

みことばを握って、祈りの中で小さなことをひとつずつ実践するときは友だちがいます。その姿に色をぬりながら、小さなことの中に神様が隠された唯一性を発見しましょう。



きょうのでんどう

あひと 会う人

じゅんび しりょう 準備する資料

Grid area for writing names of people to meet.

Grid area for writing preparation materials.



### 使徒 3章 1～12節

すると、ペテロは、「金銀は私にはない。しかし、私にあるものを上げよう。ナザレのイエス・キリストの名によって、歩きなさい」と言って、(6)

よくない習慣のために同じ失敗を繰り返すことがあります。気がつくとも、私はもちろん他の人にも、多くの被害が及んでいることがあります。このような事態は、やがて考えもしなかった方向に転がってゆきます。そのような原因となる行動は、知らずに刻印されてしまったことです。ですから、刻印を崩すことは、奇跡です。では、いったいどうすれば、そのような奇跡を答えとして受けることができるのでしょうか。

使徒3章には、いつも神殿の美しの門の前にいた生まれつき足のなえた人が登場します。彼には歩くことができない問題よりも、本当は、もっと大きな問題がありました。それは誤った刻印でした。そんなある日、彼にイエス・キリストの御名とともに、力と権威が伝えられました。そのとき、彼の生活と考えを支配していた刻印が崩れました。それと同時に、神の子どもとして新しい生活が始まりました。

足のなえた人の刻印が崩れたように、神様の祝福を味わうことを邪魔する私の誤った刻印が崩れるように祈りましょう。まことの礼拝と祈りの奥義を聞き続けることが重要です。奇跡の答えが必ず与えられるでしょう。



### きょうのみことば



### きょうのいのり

神様、ありがとうございます。誤った刻印が崩れる、まことの神様の祝福と計画がはじまりますように。生きておられるイエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン



今月はどんなことを悩んでいますか。

なやんでいます



パウ・ウヨン牧師夫人

わたし、なやんでいます

ずっと私を困らせる誤った刻印を崩したいです。どうすれば良いですか。

最近の小学生は、ゲームやスポーツ、アイドル歌手、俳優で頭がいっぱいになるような刻印を持ってます。この質問をした友だちは、一体何に困って、どんな刻印を誤った刻印だと気付いたのでしょうか。

刻印というのは、判子を作る時に文字を彫るように、しっかりと頭の中に刻み込まれたものを言います。したがって、どれくらい深く刻印されたかによって、いやしの期間も変わります。いやし期間も必要ですが、刻印を変えるためには、ただ福音に集中することが最も重要です。

まずは、時間を定めて賛美を始めましょう。祈る習慣がなかったとしたら、ひとりでみことばを読んで祈ることは難しいと思えるでしょう。ですから、まずは賛美で神様に集中する必要があります。音楽がなくて賛美しにくいなら、賛美の曲を流しながらいっしょに歌うことをオススメします。賛美するときに暗やみが崩れるという事実を信じて、歌詞を考えながら賛美に集中しましょう。二つ目、暗やみが縛られる約束を信じて、誤った刻印がいやされるように祈りましょう。(1サムエル16:23、ルカ10:19、ヘブル1:14)三つ目、いやしに関する約束のみことば(マラキ4:2、エレミヤ30:17、出エジプト15:26)を声に出して読んで心に刻みましょう。四つ目、誤った刻印を振り回されないように時間を管理しましょう。切実なお祈りをささげた後、すぐにゲームに熱中して、アイドルの歌に集中する。そんな生活を続けて、誤った刻印がいやされると思いますか。

これからは、毎日4つの実践に挑戦しましょう。

もっとはやく刻印を崩したいなら、定刻祈りの回数を

毎日3～5回ずつ持てば良いです。みことばと祈りによる

正しい刻印が多くなるほど、誤った刻印ははやく崩れるでしょう!

### きょうのでんどう

### 会う人

### 準備する資料

Grid area for writing names of people to meet.

Blank lines for writing preparation materials.



# きずを いやす こたえ

使徒  
8章 4~8節

汚れた<sup>けが</sup> 蓋につか<sup>れい</sup>れた多くの<sup>おほく</sup> 人々からは、その<sup>ひと</sup> 蓋が大<sup>おほ</sup> 声で叫<sup>おほ</sup> んで出<sup>ま</sup> て行くし、多くの<sup>おほく</sup> 中<sup>ちゆうぶ</sup> 風の者<sup>もの</sup> や足<sup>あし</sup> のなえた<sup>もの</sup> 者は直<sup>なお</sup> ったからである。それでその<sup>まち</sup> 町に大<sup>おほ</sup> きな<sup>よろこ</sup> 喜び<sup>び</sup> が起<sup>おこ</sup> った。

サマリアは捨てられた地<sup>す</sup> だと思<sup>おも</sup> われていた<sup>ので</sup>、サマリアの人々<sup>ひとびと</sup> は戦<sup>せんそう</sup> 争<sup>そう</sup> をするしかありませんでした。男<sup>おとこ</sup> たちは捕<sup>つか</sup> まえられて、女<sup>おんな</sup> と子ども<sup>こ</sup> たちは暴<sup>ぼうりよく</sup> 力<sup>りき</sup> に苦<sup>くる</sup> しむほかなかったのです。戦<sup>せんそう</sup> 争<sup>そう</sup> が終<sup>ふた</sup> わって再<sup>また</sup> びサマリアに<sup>かえ</sup> 戻<sup>かえ</sup> った彼<sup>かれ</sup> らを、だれも慰<sup>なぐさ</sup> めてはくれませんでした。むしろ<sup>ほか</sup> 他<sup>ち</sup> の地<sup>ち</sup> 域<sup>いき</sup> の人々<sup>ひとびと</sup> に無<sup>む</sup> 視<sup>し</sup> されていたのです。それだけでは<sup>あり</sup> ません。礼<sup>れい</sup> 拝<sup>はい</sup> をささげる<sup>ため</sup> に向<sup>む</sup> かった神<sup>しん</sup> 殿<sup>でん</sup> では、入<sup>はい</sup> ることができないように<sup>よう</sup> に邪<sup>じ</sup> 魔<sup>ま</sup> をさ<sup>な</sup> げました。その<sup>よう</sup> にして、彼<sup>かれ</sup> らは長<sup>なが</sup> い間<sup>あいだ</sup>、傷<sup>きず</sup> の中<sup>なか</sup> で生<sup>い</sup> きていま<sup>い</sup> した。

その<sup>とき</sup>、ピリポが<sup>ふくいん</sup> 福<sup>ふく</sup> 音<sup>いん</sup> を持<sup>も</sup> っ<sup>て</sup> サマリアに<sup>い</sup> 行<sup>い</sup> きま<sup>し</sup> た。サマリアの<sup>まち</sup> 町<sup>で</sup> ピリポが<sup>ふくいん</sup> 福<sup>ふく</sup> 音<sup>いん</sup> を伝<sup>つた</sup> えたとき、い<sup>やし</sup> の奇<sup>き</sup> 跡<sup>せき</sup> を通<sup>とお</sup> して神<sup>かみさま</sup> 様<sup>が</sup> 彼<sup>かれ</sup> らを愛<sup>あい</sup> してお<sup>ら</sup> れるという<sup>じ</sup> 事<sup>じ</sup> 実<sup>じつ</sup> があ<sup>か</sup> しされま<sup>し</sup> た。こうして、その<sup>まち</sup> 町<sup>に</sup> 神<sup>かみさま</sup> 様<sup>が</sup> と<sup>も</sup> にお<sup>ら</sup> れるという<sup>じ</sup> 事<sup>じつ</sup> 実<sup>じつ</sup> が現<sup>あら</sup> われたのです。それと<sup>どう</sup> 時<sup>じ</sup> に、自<sup>み</sup> に見<sup>み</sup> えな<sup>い</sup> 長<sup>なが</sup> い間<sup>あいだ</sup> あ<sup>っ</sup> た霊<sup>れい</sup> 的<sup>てき</sup> な傷<sup>きず</sup> ま<sup>で</sup> もい<sup>や</sup> され<sup>る</sup> 答<sup>こた</sup> えを受<sup>う</sup> けま<sup>し</sup> た。

私<sup>わたし</sup> たちのま<sup>わ</sup> りにも、サマリアの人々<sup>ひとびと</sup> の<sup>よう</sup> に疎<sup>そ</sup> 外<sup>がい</sup> された<sup>ひとびと</sup> 人々<sup>が</sup> いま<sup>す</sup>。ピリポの<sup>よう</sup> に、彼<sup>かれ</sup> らに神<sup>かみさま</sup> 様<sup>の</sup> 愛<sup>あい</sup> を知<sup>し</sup> らせ<sup>る</sup>、喜<sup>よろこ</sup> びの知<sup>し</sup> らせを<sup>つた</sup> える<sup>伝</sup> 道<sup>どう</sup> 者<sup>しや</sup> になる<sup>よう</sup> に祈<sup>いの</sup> り始<sup>は</sup> めま<sup>し</sup> ょう。



## きょうのみことば

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_



## きょうのいのり

神<sup>かみさま</sup> 様<sup>、</sup> ありが<sup>と</sup> うご<sup>ざ</sup> いま<sup>す</sup>。神<sup>かみさま</sup> 様<sup>を</sup> 知<sup>し</sup> ら<sup>ず</sup> に傷<sup>きず</sup> ついた<sup>人</sup> を、生<sup>い</sup> かして<sup>い</sup> やす<sup>答</sup> えを<sup>つた</sup> える<sup>伝</sup> 道<sup>どう</sup> 者<sup>しや</sup> になる<sup>よう</sup> に導<sup>い</sup> っ<sup>て</sup> くだ<sup>さ</sup> い。生<sup>い</sup> きてお<sup>ら</sup> れる<sup>イ</sup> エ<sup>ス</sup>・キ<sup>リス</sup> トの<sup>お</sup> 名<sup>な</sup> 前<sup>まえ</sup> によ<sup>っ</sup> てお<sup>祈</sup> りま<sup>す</sup>。ア<sup>ー</sup> メ<sup>ン</sup>



みことばを  
適用しよう

全世界<sup>ぜんせかい</sup> 237 <sup>こく</sup> か国<sup>こく</sup> には一<sup>いち</sup> 度<sup>ど</sup> も福<sup>ふくいん</sup> 音<sup>いん</sup> を聞<sup>き</sup> いたこと<sup>の</sup> ない<sup>しゆぞく</sup> 種<sup>しゆ</sup> 族<sup>ぞく</sup> が5000 <sup>こほ</sup> ほど<sup>ど</sup> います。ひと<sup>ひと</sup> つの<sup>しゆぞく</sup> 種<sup>しゆ</sup> 族<sup>ぞく</sup> を選<sup>えら</sup> んで<sup>か</sup> 書<sup>か</sup> いて、そ<sup>ひと</sup> の人<sup>ひと</sup> 々に<sup>ど</sup> の<sup>よう</sup> に<sup>よう</sup> に福<sup>ふくいん</sup> 音<sup>いん</sup> を<sup>つた</sup> える<sup>か</sup> を<sup>かんが</sup> 考<sup>かんが</sup> えま<sup>し</sup> ょう。

私<sup>わたし</sup> は \_\_\_\_\_ (国<sup>くに</sup> の名<sup>な</sup> 前<sup>まえ</sup>) の \_\_\_\_\_ 種<sup>しゆ</sup> 族<sup>ぞく</sup> に \_\_\_\_\_ 福<sup>ふくいん</sup> 音<sup>いん</sup> を<sup>つた</sup> えます。

\_\_\_\_\_ 種<sup>しゆ</sup> 族<sup>ぞく</sup> を<sup>えら</sup> んだ<sup>りゆう</sup> 理<sup>り</sup> 由<sup>ゆう</sup> は \_\_\_\_\_ だ<sup>す</sup>。

また、私<sup>わたし</sup> は \_\_\_\_\_ を<sup>とお</sup> して \_\_\_\_\_ 福<sup>ふくいん</sup> 音<sup>いん</sup> を<sup>つた</sup> えます

## きょうのでんどう

あ <sup>ひと</sup> 会<sup>あ</sup> う<sup>人</sup>

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

じゆん<sup>び</sup> 準<sup>じり</sup> 備<sup>りよう</sup> する<sup>資料</sup>

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

# 02

とよび

## かみさまに みちびかれましょう

使徒

11章 19～30節

さて、ステパノのことから起こった迫害によって散らされた人々は、フェニキヤ、キプロス、アンテオケまでも進んで行ったが、ユダヤ人以外の者にはだれにも、みことばを語らなかつた。(19)そして、主の御手が彼らとともにあつたので、大ぜいの人が信じて主に立ち返つた。(21)

ユダヤ人は、選民意識に囚われていました。神様はユダヤ人だけを救われるので、他の人は全員のろわれて、滅ぼされると信じていたのです。それゆえ、異邦人に福音を伝えることをまったく考えもしませんでした。かえって異邦人と付き合うことは悪いことだと考えていました。そのような中で、パウロがイエス様に来て、完全に変わりました。そして、異邦人のための神様の計画を知って、異邦人に福音を伝え始めました。その当時、神様を知らない異邦人の現場には、完全に悪霊に取りつかれて苦しんでいる人々でいっぱいだからです。

サタンは今も多くの人に間違つた考えと、おかしな心を植えつけて苦しめます。その影響を受けた人は、自分で自分を苦しめたり、おかしなことをうわさして他の人を苦しみに陥れたりします。サタンが作つておいた落とし穴、枠、わなに陥つた人々であるほど、ここから抜け出すことはとても難しいのです。私たちは、パウロのように、このような人々を救済するレムナントとして召されました。この奥義を持った者という事実を覚えて、小さなことから神様の導きを受けるように祈りましょう。



読みのみことば



心のいのり

神様、ありがとうございます。サタンが作った落とし穴、枠、わなに陥ることがないように、福音の力の中で正しい考えと心に導かれますように。生きておられるイエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン



めいろ

サタンが作った落とし穴、枠、わなに陥らないように導かれる体質を備えた子どもがいます。めいろを通して、私も同じ体質を備えるように祈りましょう。



読みのでんどう

あひと 会う人

じゆんびき しりょう 準備する資料